

令和5年度 研究概要

<p>所属名</p> <p>カリキュラムセンター</p>	<p>研究会議名</p> <p>健康教育研究会議</p>
<p>研究主 題</p>	<p>不安や悩みを伝える大切さについて学ぶ授業づくり ～発達段階に応じたアプローチ～</p>
<p>資質・能力 育成を目指す</p>	<p>自己の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に自ら解決方法を意思決定し、実践する力</p>
<p>研究内容</p>	<p>中央教育審議会答申では、近年子どもたちを取り巻く生活環境の急激な変化により、肥満・痩身、生活習慣病、心の健康・精神疾患、感染症、性に関する問題、アレルギー疾患、薬物乱用防止、様々な健康情報、性・薬物等に関する情報の入手、栄養摂取の偏りや朝食欠食などの食習慣の乱れ等、現代的な健康課題について述べている。</p> <p>学校における健康教育は、保健教育、安全教育、食育が三つの柱となる。学習指導要領では、心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科・保健体育科、家庭科及び特別活動の時間はもとより、各教科、道徳科、外国語活動及び総合的な学習の時間などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うように努めることと、記載されている。体育科・体育科の保健の学習の心の健康・ストレスの対処等に関する内容では、新たに技能と位置付けて、具体的な対処を学習することになった。</p> <p>研究員の所属する学校では、不安や悩みを抱えて保健室に来室する児童生徒が多くいる。そこで本研究会議では、体育科・保健体育科の保健の学習、かわさき共生*共育プログラム等と関連付け、不安や悩みへの対処にはいろいろな対処法がある中で、相談の仕方、話の聞き方、不安や悩みを伝える大切さについて、特別活動において学級担任と養護教諭と一緒に授業を行う授業モデルについて研究する。児童生徒の実態把握と変容を見取るために、アンケートを実施し、分析する。授業実践を通して、ワークシートの記述やインタビューから成果と課題を明らかにし、発達段階に応じたアプローチについて検証する。</p>